海の声

本調子

七 六 工 四 工 中 中尺工 四 工 ○

※そらのこえがきき

合 四 工 七 六 工 四 七 六 工 四 中 工 五 四

たくてかぜのこえにみみ

五 工 工 四 中 上 中 合 中 七 六 五『工 四

すませうみのこしり

上 四 上 合 七 六 工 四 七 六 工 四 中 工 五 四

たくてきみのこえをさが

五 工 工 四 中 上 中 中 七 六 五『工 四

して る ※@へ

上 四 合 四 中尺工 四 工

七 六 工 四 尺 中 工 四 工

あえないそうおもうほどに

七 六 工 四 尺 中 工 四 工

あいたいがおおきくなってゆく

七 六 工 四 尺 中 工 四 工

海の声

本調子

七 六 工 四 尺 中 工 四 工

かわの つぶやき やまのささや き

七 六 工 四 五 工 工 四 工

きみの こえのように かん

上 合 中 上 中 上 四 合 上

じるんだ めを と じれば

合 工 工 五 中 上 四 合 上

きこ えて くる きみの ココロ した

合 上 合 工 中 上 四 合 上

わらい ごえ こえに だせば

合 工 合 五 中 工 工

とどき そう で きょうも

中 工 工 工 五 五 工

うたってる うみの こえに のせ て

五 五 六 合

※へ

海の声

本調子

@

七 六 工 四 七 六 工 四 中 工 五 四 五 工 工 四

中 上 中 中 七 六 五『工 四 上 四 上 合

七 六 工 四 七 六 工 四 中 工 五 四 五 工 工

中 上 中 中 七 六 五『工 四 上 四

合 四 中 上 四 合 上 合 工

たとえ ぼくが おじいさんに

合 五 中 工 工 中

なっても ここで うたって

工 工 工 五 五 工 五

る きみだけをおもって

海の声

本調子

	五		六	合	七	六	工	四	七	六	工
うみの											
こえよ											
かぜの											
	四										

	五	工	工	四	中	上	中		中	七	六
こえよ											
そらの											
こえよ											
たいよう											
の											

	上	四	上	合	七	六	工	四	七	六	工
こえよ											
かわの											
こえよ											
やまの											
の											

	五	工	工		中	上	中		中	七	六
こえよ											
ぼくの											
こえを											
のせ											

	上		四	合		四		七	六	工	
てゆけ											

	中	工					七	六	工		

	工						七	六	工	○	

海の声

一、※

空の声が　聞きたくて
風の声に　耳すませ
海の声が　知りたくて
君の声を　探してる　※

会えない　そう思うほどに
会いたい　が大きくなってゆく
川のつぶやき　山のささやき
君の声のように　感じるんだ

目を閉じれば　聞こえてくる
君のコロコロした　笑い声
声に出せば届きそうで
今日も歌ってる
海の声にのせて

※繰り返し

二、たとえ僕が　おじいさんになっても
ここで歌ってる
君だけを想って

海の声よ　風の声よ
空の声よ　太陽の声よ
川の声よ　山の声よ
僕の声を　乗せてゆけ

本調子